敦賀美浜 ふるさと紀行

美浜町 丹生地区

敦賀半島丹生地区の昔・今、未来へ。

土取り工事中に発見された6～7世紀の古墳

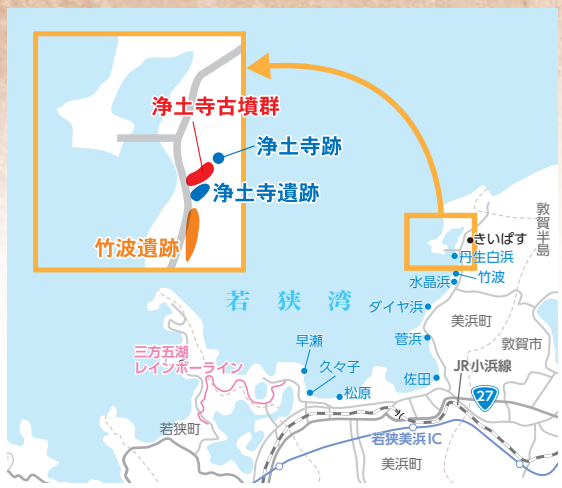
敦賀半島北西部に位置する美浜町丹生地区。この地には、古墳時代後期（6～7世紀頃）のものと見られる古墳群があり、古くから人々が営みを行ってきた歴史ある地域です。

古墳群の一つである浄土寺古墳群は、3基からなる古墳群です。1977（昭和52）年、1号墳周辺で行われていた土取り工事の際に石室（古墳の墳丘の中に造られた石造りの埋葬施設）の一部が発見され、消滅の危機にあったことから緊急調査が行われました。調査時には大規模な土取りが進んでいたため、古墳の形や規模は明確にはわかりませんが、石室の造り方や出土品から6世紀末頃のものと推定されています。1号墳は調査終了後に消滅し、現存していません。

2号墳・3号墳は1号墳の東部にある小高い尾根の上にあります。1977（昭和52）年に2号墳の発掘調査を行った際、3号墳が存在することが確認され、2004（平成16）年に、2号墳・3号墳の発掘調査が行われました。

2号墳・3号墳の横穴式石室には「石棚」と呼ばれる棚状の施設があるのが特徴です。石棚の役割には諸説ありますが、石棚の下の空間を棺として意識していたことが想定されます。2号墳と3号墳はよく似た造りですが、3号墳は簡素化されていることから2号墳の後に造られたと推測されています。

美浜歴史文化館では、浄土寺古墳群から発見された出土品を展示しています。2号墳から出土した製塩土器の存在は古墳群に埋葬された人々と製塩の関係を示し得る遺物として興味深い出土品です。また、1号墳の石室では刀子（とうす）、棗玉（なつめだま）、管玉（くがだま）などといった副葬品、3号墳では須恵器（すえき）が出土しています。



浄土寺古墳群２号墳石室

浄土寺遺跡２号墳から出土した土師器（はじき）、甕（かめ）、製塩土器

製塩集団の墓域として造営

これらの古墳群が造られた6～7世紀頃、敦賀半島の浦々では土器を使用した製塩が行われており、浄土寺古墳群は製塩を行っていた人々によって造営されたと考えられています。

丹生地区内には長浜畑（ながはまばた）遺跡など製塩遺跡の存在が知られています。また浄土寺古墳群に隣接する浄土寺遺跡・竹波遺跡（竹波区）でも製塩が行われていたことが認められているなど、沿海部に暮らした人々が盛んに製塩を行っていた形跡が数カ所見つかっています。

当時、塩は朝廷への献上品としての役割があったと考えられており、丹生地区にはヤマト王権に海産物などを貢納していた漁業や渡航技術にも長けていた海浜集団、海部（あまべ）に属した人々が暮らしていた可能性があります。

製塩遺跡のあった場所の一つは、1958（昭和33）年4月に開校した丹生小学校のグラウンドとなりましたが、学校再編に伴い丹生小は2015（平成27）年3月に閉校。跡地は2017（平成29）年4月より美浜町エネルギー環境教育体験館「きいぱす」となり、子どもたちがエネルギーや環境を学ぶ体験型の教育施設として多彩なプログラムを実施し、県内外からたくさんの学生が訪れています。

美浜町エネルギー環境教育体験館「きいぱす」

丹生地区の納谷区長は、「丹生地区は古墳や遺跡が残されており悠久の歴史と美しく豊かな海、そしてエネルギーに関する環境が共存する場所です。我々はこの地域の文化を守り後世に伝えていくとともに、多くの方に丹生を訪れていただきたい」と話します。

取材協力・写真提供／美浜歴史文化館

発行所 ■ 日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部＝〒914-8585 敦賀市木崎65号20番地
☎0770（23）3021 ホームページ https://www.jaea.go.jp/04/turuga/（2023年12月発行）